
雪祈葬

青糸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雪祈葬

【Zコード】

N7777E

【作者名】

青糸

【あらすじ】

神がない世界。それは、消えた二人の神の意志を継ぐ者たちの戦場。

01・悪夢であれと願う者

夜の魔物は緋色に濡れる
世界に巣くう物語の紡ぎ手

雪祈葬

～01・悪夢であれと願う者～

部活で帰りが遅くなつて、時計を見れば午後九時。
早道をしようと思つて裏道を通つた。そう、それだけ。
でも僕はここまで運が悪いんだろうか。
なんでこんな光景を田にする？

田の前に居るのは人。

普通の人じやないことは一目で分かつた。

大きな鎌に、黄金色の髪に、エメラルドの目。

そいつの足元には血まみれのスースを着た男が倒れていて。
倒れている男が誰だかはすぐにわかつた。

この頃ニュースで話題になつてゐるインターネットで企業が大成
功した人だ。

よくよく見れば、持つてゐる大鎌にも血がべつとりついていて、
そいつの服にも大量の血。でも傷がある様子はない。
殺したのは一目瞭然。

そいつは頬についた返り血を拭うこともなく、口を開いた。

「なんだ。またネズミが増えたかと思つたじやないか」

僕の耳に届いたのは思いのほか綺麗な声で。
そいつは一步一步近寄つてくる。

僕も、一步一步後ずさつする。

「少年、学生でしょ？」この国の制服着てるし！」

「君は……何……？」

僕の口から出たのは、震えてかすれた声。
そいつは足を止めて、微笑んだ。
血のついたその笑みは妖艶で。
そいつは静かに言つた。

「ボクたちはNightmare……夜の魔物さ

Nightmare……悪夢。

今僕の思いにぴったりだ。

これが悪夢であつてくれればどれだけ嬉しいことか。
この光景を目にした瞬間は、それを願つた。
でも、夢じやないなんてすぐにわかつた。

「世界の事件には必ずと言つていいほどボクたちが絡んでる。
まあ、この一ホンつていう国には最近出でてきたばっかりだけど」

「あ、これが夢ならこんな夢を作り出す自分の脳に乾杯だ。
ありえない。」

そんな事実があることも、そんな事実を笑いながら言えること

も。

「たとえばロンドンの切り裂きジャック。アレもボクたちの仲間・

・
タンゴがやつたことさ。でもアイツ調子に乗るからね。
事が大きくなつたからジャックとかいう奴に罪を着せただけ」

ロンドンの切り裂きジャックは本で読んだから知つていた。
でも、こいつの言つことが本当なら切り裂きジャックは無実な
に殺されたことになる。
なんと哀れなことか。

「自己紹介が遅れたね」

今更自己紹介も何もあるかと思つたが、そいつは頭に乗せていた
小さなシルクハットをとつた。
そしてまたふわりと笑つて口を開く。

「ボクはワルツ。死神のワルツ」

そう言つて、ソイツは嗤いながら、血にまみれた鎌を僕に突きつけた。

「遊ぼうよ。少年」

僕は恐怖に足が竦んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7777e/>

雪祈葬

2010年11月12日07時20分発行